「和紙」×（まぜる）「漁網を織る技」＝

肌想いのお風呂タオル

～浜名湖 和紙タオル～

伝統技術から誕生したタオルの謎に迫る

釣り船が行き交い、ウインドサーフィンのカラフルな帆が風を切る浜名湖・庄内半島。「浜名湖 和紙タオル」は湖畔に佇む小さな織物工場から生まれた。実はここ村櫛地区は「からみ織り」と呼ばれる特殊な織物の生産地でもある。かつて、遠州灘のシラスや駿河湾の桜エビを獲る漁網として利用された。

タテ糸を交差させて絡ませ合い、その間にヨコ糸を通す「からみ織り」は、非常に緻密な目に仕上がるのが特徴だ。小魚を逃さず、激しい潮流にさらされても目がずれない。また、手入れの必要がほとんどなく、丈夫で長持ちすることから漁師たちに重宝がられた。こうした伝統の技を応用して生まれたのが「浜名湖和紙タオル」である。その使い勝手を確かめ、品質づくりの秘密に迫った。

DATA

商品名／浜名湖 和紙タオル
サイズ／幅約30cm×長さ100cm
価　格／1260円
会社名／静岡濾布（ろふ）
住　所／静岡県浜松市西区村櫛町3294
TEL.053-489-2331
FAX.053-489-2330
ホームページ http://www.shizuoka-rof.co.jp/
入手方法／同社工場内「しゃぶしゃぶ体験工房」、舘山寺周辺の観光ホテル、JR浜松駅コンコースで購入できる。
通販サイト http://www.washi-towel.com/

キリトリ

HAMA流ライターが試してみました

なめらかな泡立ちと新感覚の肌ざわり

私、ライターSは敏感肌で毎日のスキンケアには気をつかっている。和紙が材料と聞き感触がなかなかイメージできなかったが、実際に手に取ってみると、デコボコしたヨコ糸の浮き出しが肌をやさしく刺激する。洗面器に張ったお湯に浸すと、一瞬にして水分を吸収。少量の石けんでみるみるうちに泡立つ。

説明書に「石けんなしでも使える」と書かれていたので、やってみた。意外にさっぱりした洗い上がりだ。皮脂汚れを落とす効果に期待して洗顔にもトライ。洗顔クリームを泡立ててTゾーンを軽くマッサージするとツルツルになった。突っ張り感がなく、これならローションや乳液がいらないような気がした。

人によっては、ナイロン製タオルのようなゴシゴシ感を求めるかもしれないが、私は満足。今後しばらく使い続け、肌がどう変化するかを確かめたい。

お湯に浸けるとしなやかに
石けんの滑りもスルスル

みるみる泡立つ和紙タオル。
泡のきめ細かさにびっくり!

比べてみれば違いがわかる

ライターSの感想

市販されているさまざまなボディータオルの中から、「ナイロン×ポリエステル」と「麻」を選んで比較!

	浜名湖 和紙タオル	ナイロン×ポリエステルタオル	麻のタオル
原材料	和紙50%、テンセル45%、ポリエステル5%	ナイロン76%、ポリエステル24%	麻100%
泡立ち	きめ細かい泡が立ち、こすればこするほど泡が増える	最初はよく泡立つが、途中で泡がへたる	布が泡を吸収してしまい、あまり泡立たない
肌触り	全体的にやわらかく、ほどよいマッサージ感がある	ザラザラした感触。強くこすると痛い	デリケートな肌触り。水分を含むと少し重い
洗い上がり	すべすべの洗い上がり。突っ張らない	さっぱり感がある。ただし、入浴後の保湿は不可欠	磨き上げたという実感に乏しい
速乾性	完全に乾くまでにやや時間がかかる	素早く乾く	乾きが遅い。翌日使う時まで湿っていることも

愛用者のコメント

（※静岡濾布に寄せられた個人の感想より引用）

汚れ落ちのよさに感動 ご挨拶に使っています

麻や綿のタオルよりはるかに泡立ちがよく、汚れが気持ちよく取れることに感動しました。綿のようにずっしりと重い使用感がなく、乾きが早いのもうれしいですね。色がきれいなので、バスルームがパッと華やかに。進学祝いや引っ越しのご挨拶、お返しなどに幅広く使っています。
（静岡県　I・Aさん）

競技ダンスのメイク落としに 和紙タオルが大活躍

最初は「これ、大丈夫?」と半信半疑でしたが、今では手放せません。私は競技ダンス（社交ダンス）をやっていて、舞台に立つ時は入念にメイクするのですが、和紙タオルを使うと驚くほどよく落ちるんです。紹介してくれた友達に感謝。結婚した子どもたちにも勧めています。
（北海道　K・Mさん）

まさに肌想いのタオル 祖父孝行できました

家族旅行で浜松を訪れ、皮膚の弱い祖父へのおみやげに購入。祖父は重度の糖尿病と腎不全のため、薬の副作用で肌がボロボロ。傷つきやすく、炎症を起こしやすかったのですが、このタオルは肌に合っているようです。「新品をもう1本ほしい」というリクエストがあり、ささやかながら祖父孝行できたと喜んでいます。
（富山県　F・Cさん）

混ぜる方程式 3

技のコラボで意外性を追求

浜松の産業観光に役立てたい

突撃インタビュー

戦後、織物に代わってニット（編み物）で漁網が作られるようになると、静岡濾布はもち米を蒸す時に使うふかし布へと方向転換し、からみ織りの活路を開いた。ある時、「ふかし布で体を洗ったらよかった」という消費者の声が届き、これをきっかけに松下満彦社長は浴用タオルの開発に着手する。

「綿、麻、綿麻、シルクなどあらゆる素材を試み、和紙にたどり着いたのが1997年。現在、世の中では1000種類以上のボディータオルが市販されていますが、3種類の糸を交ぜ、浜名湖伝統のからみ織りで作る和紙タオルは当社独自です」

和紙タオルは左の写真のような手順で作られる。織るだけでなく、加熱によって糸を収縮させ、和紙をたるませるという発想がポイントだ。「熱収縮糸が切れない限り、和紙は溶けも破れもしない。最低でも1年はもちますよ」と松下社長は胸を張る。生地ができたら一枚一枚職人が手染めし、天日で乾燥させて彩り美しく仕上げる。

発売と同時にブレイクし、製造工程を見ようと多くの観光客が見学に訪れる。「産業観光で浜松が活性化すればいいな。村櫛生まれの私は、風光明媚（びこうめいび）な浜名湖のファンをもっともっと増やしたいのです」。静岡濾布の工場の軒先では、今日も染め上げたばかりの色鮮やかな和紙タオルが風に揺れている。

静岡濾布（ろふ） 代表取締役
松下満彦さん

1939年9月6日生まれ。3代目。1989年に代表取締役に就任。静岡県繊維協会会長。1997年、静岡県科学技術振興功労者として静岡県知事賞を受賞。同社の技術はNHK紅白歌合戦の舞台衣裳にも使われている。

浜名湖 和紙タオルができるまで

和紙をたるませ、引っ張る力から解放。
「縮む」と「ゆるむ」の相乗効果で強さを生む。

1 和紙（左上）、ポリエステルの熱収縮糸（右上）、テンセル（下）の3種類の糸が材料。

2 特許製法の「遠州からみ縮れ織り」で織る。漁網の時代から働き続ける織機は年代物。

3 織り上げたばかりの和紙タオルの基生地。この時点ではまだ和紙の糸が平坦なまま。

4 湯に浸けると熱収縮糸が縮み、和紙がたるむ。パイル状になった和紙は形状を保つ。

百聞は一見にしかず。和紙タオル誕生の瞬間を体験！

工場に併設された「和紙タオルのしゃぶしゃぶ体験工房」では、製造工程のひとつである加熱と染めを体験できる。体験用に織られた30cm角のミニタオルを鍋に沸かした熱湯の中でしゃぶしゃぶすると、あら不思議。それまで平らだった表面があっという間に立体的な網状構造となり、まるでヘチマのような和紙タオルに変身する。好きな色で染めたタオルはおみやげに持ち帰ることも。子どもから大人まで楽しめる体験工房だ。

所要時間約30分。解説・実演あり。体験料500円（見学は無料）。予約は電話・FAXで（P14参照）。

Web Page

松下さんインタビューの詳細は…

浜松の元気 検索

浜松市シティプロモーション情報
WEBサイト「浜松の元気」
http://www.hamamatsu-genki.jp/

キリトリ